

メルキゼデクの会主催

難病：慢性疲労症候群について

この病気の実態を描くドキュメンタリー映画を見て考える

2010年1月27日(水) 18:45~20:30

場所：カトリック麹町教会（聖イグナチオ教会）信徒会館3階アルペホール
（JR・東京四ツ谷駅下車すぐ、上智大学手前）

上映後のお話 翻訳者：篠原三恵子（カトリック秋津教会信徒）

難病の慢性疲労症候群（CFS）と闘う人々を描いたアメリカの作品。製作したキム・スナイダー監督（女性）自身が、CFS患者。不可解な病気、CFSと認定されたが有効な治療方法はなく、同じように苦悩する全米各地の患者や医師たちを訪ね歩いた感動の問題作。ミステリーじみた発症と病気の歴史。病気と患者に対する社会的偏見の存在。政府や医師会などの怠慢などを明らかにしながら、患者たちの生き方、治療法を探る医師たちの努力などを紹介した、きわめて社会性に優れたドキュメンタリー映画。



CFS（慢性疲労症候群）とは

生活が著しく損なわれるような強い疲労を主症状とし、少なくとも6ヶ月以上の期間持続ないし再発を繰り返す。その他に、微熱、リンパ節の腫脹、筋力低下、睡眠障害、頭痛/のどの痛み、筋肉/関節痛、思考力/集中力の低下などの症状がみられるが、血液検査では内部疾患が見つからない。原因不明で、治療法も確立されていない。完治率4~10%といわれており、日本では、約38万人(人口の0.3%)がCFSを罹患していると推定されている。つい最近、アメリカで原因についての重大な発表があり、世界中の科学者がその研究に注目している。

翻訳者：篠原三恵子

アメリカに在住していた1990年の夏にCFSを発病。その頃在学していた学校は卒業したものの、無理がたり、その後は悪化の一途をたどる。その後カナダに移ったが、1995年に外出は車イスとなり、1996年に帰国。ここ3、4年は寝たきりに近い生活を送っている。アメリカやカナダにくらべ、CFSへの理解不足と偏見を実感。日常生活が送れないほど具合が悪いにもかかわらず、医師から診断してもらうことすら困難で、周囲の無理解にも苦しみ、孤立し追い詰められている同じ病気の人たちと出会い、このドキュメンタリーを通して、病気の理解を広めたいと願っている。

この作品の販売用DVDを制作するために、アメリカからの権利の購入と制作費で合計90万円の資金が必要で、現在その資金を募っています。募金にご協力下さい。DVDの完成は3月が目標です。

主催：カトリック麹町教会（聖イグナチオ教会）メルキゼデクの会
連絡先：04-7153-3892（岩田）